

24. ^{123}I -IMP SPECT 再分布率とリハビリテーション効果の
関係についての検討 川上 剛他 970
25. 全身 PET による食道癌の診断——吸収補正の有無での画像の比較—— 姫野 信治他 970
26. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -ECD SPECT を用いた 3-コンパートメントモデルに基づく
新しい脳血流測定法の開発 小田野行男他 971
27. MRI を用いた SPECT の部分容積効果の補正(第1報) 国弘 敏之他 971
28. TCT 画像を利用した SPECT と CT のフレームレス 3 次元位置合わせ 油井 信春他 971

一般演題

1. Neurofibromatosis の一例：核医学画像所見と文 獻的考察

板垣 麗子 松原 升 (横浜市大・放)
大竹 英二 (藤沢市民病院・放)

Neurofibromatosis (Von Recklinghausen's Disease) は、1/3000 人の割合でみられる母斑病である。今回われわれは、多発性腫瘍のうち右大腿部腫瘍の摘出標本で neurofibroma と診断された症例について、術前に骨シンチ、Tlシンチ、Gaシンチを施行した。その結果、骨シンチでは、骨外集積を示し、Tlシンチでも右大腿部腫瘍に集積を認め、early image よりも delayed image で集積が低下していた。また、Gaシンチでは、悪性には集積し、良性には集積しないという、今までの報告とは異なり、良性であったが、軽度集積を認めた。これらの結果は、今後の核医学検査や臨床診断の上で、参考になる所見であると思われた。

2. ^{131}I -MIBG が有用であった新生児 Neuroblastoma の一例

大道 雅英 町田喜久雄 本田 憲業
高橋 卓 細野 真 高橋 健夫
釜野 剛 鹿島田明夫 清水 裕次
長田 久人 豊田 肇 小川 桂
渡部 渉 出井 進也 大多和伸幸
薄井 康孝 岡田 武倫
(埼玉医大総合医療セ・放)

症例は日齢 0、女児。主訴は腹部膨満、頻呼吸。在胎日数は 40 週 4 日、生下時体重は 2,676 g で新生児

仮死 (Apgar score 3) を認めた。肝 5 横指と、左中腹部の固い腫瘍を触知した。腹部 X 線写真、腹部 US、腹部 CT、および腹部 MRI にて左副腎腫瘍を認めた。尿中 HVA、尿中 VMA、血中 NSE の上昇を認めた。 ^{131}I -MIBG シンチグラフィにて左副腎腫瘍および肝臓へのびまん性高集積を認め、左副腎原発神経芽細胞腫、びまん性肝転移と診断した。肝転移の診断にも ^{131}I -MIBG シンチグラフィが最も明瞭であった。

3. ^{67}Ga シンチグラフィで著明な集積の見られた副 腎癌の一例

尾込智峰子 宮地 幸隆 (東邦大・一内)

症例は 41 歳の男性で右側腹部痛を主訴に来院し、尿中 17-KS・血中 DHEA-S は著明な高値を示した。腹部 CT、MRI で右上腹部に巨大腫瘍を認め、摘出後、副腎皮質癌と診断した。 ^{131}I アドステロールシンチグラフィで左副腎にわずかに集積を認めたものの、右副腎に集積は認めず、 ^{131}I -MIBG シンチグラフィでは両側副腎に集積を認めなかった。 ^{67}Ga シンチグラフィでは右上腹部に強い集積を認めた。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ フチン酸肝シンチグラフィでは肝右葉に辺縁明瞭な下方よりの圧排を認めた。これまでに報告された副腎腫瘍 11 例中 8 例に ^{67}Ga の集積を認め、5 例が癌、3 例が腺腫であった。集積を認めた 8 例中 4 例はすべて臨床症状を欠く癌で、3 例はステロイドホルモン非産生癌、1 例はステロイドホルモン産生癌であった。本症例は症状を欠くステロイドホルモン産生副腎癌において ^{67}Ga 集積の見られた 2 例めの症例であった。